

# 信仰

2016年11月20日（日） 午後2-4時

「生きるを考える」の集い 第六回目

日曜日の午後、  
ジョン・パーカー師の個人的体験を通して、  
「信仰」についてお話を伺います

## 第一部

### 語り手

ジョン・パーカー師（逐語通訳で聞いていただけます）、信仰に関する四項目を聖書に基づき解説

## 第二部

1. 互いによく知らない二、三人が一組になり、しばらくの間、互いに相手について神から聞く
2. 信仰を行動に移す：聞いたことに従って、相手のために祈る
3. 祈ったことが相手の励ましになり、互いのうちに信仰が生み出されんことを！

---

## 「生きるを考える」の集い・シリーズの ご案内

フルダミニストリーでは、2016年5月から2017年3月にかけて、  
この世で与えられた生命、人生をいかに生きるかの貴重なお話を、各専門域の第一線で活躍しておられる英国人講師二人から伺う「生きるを考える」の集いを企画しました。

日本の大学、研究機関に客員教授として招聘されている講師ですので、海外出張も多く、お二人が常時出席というわけではありませんが、日本滞在中、できるだけ多くの時間を、皆さまとのお交わりに費やしたいとのことですので、月一回、日曜日の午後2-4時、この集いを計画しております。

お友だちをお誘いの上、万障繰り合わせてお出かけください。

---

### 講師プロフィール

クリス・ドーン 英国ダラム大学宇宙物理学教授、ブラックホール研究者  
ジョン・パーカー 英国ダラム大学数学教授

---

場所：町田市民フォーラム4階・第一会議室A

(東京都町田市原町田4丁目9-8 サウスフロントタワー町田内)

---

**次回の予定** (最新情報はサイトでご確認ください)

日時：12月11日（日）午後2-4時

場所：町田市民文学館ことばらんど（東京都町田市原町田4丁目16-17）第六会議室

講師：クリス・ドーン師

## 信仰、一神とともに前進する一

### 【1】信仰はなぜ必要か

ヘブル人 11：6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。

- ▶ ローマ人 4 章には、アブラハムが信仰を通してどのように神に喜ばれたかが記されている。ローマ人 4：9 には「アブラハムには、その信仰が義とみなされた」とあるが、これは、アブラハムが、信仰で神を信じたことによって、神との正しい関係に置かれたということである
- ▶ しかし、それはただアブラハムのためだけではない！  
ローマ人 4：23-24 には「しかし、『彼の義とみなされた』と書いてあるのは、ただ彼のためだけでなく、また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰を義とみなされるのです」とある
- ▶ まず信仰を通して私たちはキリスト者になり、そして、信仰によって私たちは引き続き、神に喜ばれる  
エペソ人 2：8 には「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です」とある

### 【2】信仰とは何か

ヘブル人 11：1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

- ▶ 信仰は、それ以外の方法では知ることのできないもの、—「目に見えない」もの— についてである  
それは、私たちが起こると知っているものに何か霊的に特別なものが追加されるということではない  
私たちは暗やみにおり、信仰は光をもたらすものである  
ヨハネ 1：4-5、：12 には「この方（キリスト）にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった」、「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」（下線付加）とある
- ▶ 信仰は、保証と確信についてである  
これらはとても強い言葉で、信仰は希望的観測でも真実なる何かを望むということでもない  
信仰は希望とは違うことに留意されたい  
ローマ人 8：24 には「私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう」とある。  
私たちに、これらのもの（—「目に見えない」もの—）が正しく確かで、信頼できるものであるとの保証と確信を与えるのが、信仰である

### 【3】信仰はどこから来るのか

ローマ人 10：17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

- ▶ 「キリストについてのみことば」は「レーマ」、—特別な状況に対する神の話し言葉— で、「ロゴス」、—永久の、書かれた神の言葉— ではないことに留意されたい  
二箇月前、私たちはこれらの言葉について学んだ

## 信仰、一神とともに前進する一

- ▶ 私たちは、キリストがある状況について私たちに語ってくださることによって信仰を得る  
このことは、聖書を読むことを通して生じるかもしれないが、ただ聖書を学ぶというのとは明らかに違う
- ▶ 信仰は神に聞くことから生じる  
これは神と私たちとの関係の一部、一天の父との、私たちの子としての対話の一部一である
- ▶ この時点で、本題からそれるが、触れておきたいことがある  
信仰についての教えは、この主題でのある種の教えによって、  
一往々にしてテレビ伝道者たちによって一 悪名が着せられてしまった  
この人たちは、信仰へのアプローチ「名を挙げて、それを主張せよ」を教えている  
これは、機械的決定論アプローチで、科学的実験結果のように、もしあることをするなら、それに伴って何らかの結果が得られるというものである  
私は、この教えに少なくとも三つの理由で疑問を持っている
  1. ローマ人 10 : 17 は「レーマ」、一特別な状況で神が今語られる言葉一 を用いている  
神はご自分を繰り返されない、一癒しのためにキリストがさまざまな方法を用いられたことに留意されたい一  
もし私たちがある行動をただ繰り返すなら、神は自動販売機のように与えてくださる、  
というのは正しくない
  2. 恵みは、神が私たちのためにしてくださることが私たちの行動に基づくものではなく、  
神の無条件の愛に基づくものであることを示している  
「名を挙げて、それを主張せよ」を用いることは、この教えに逆らうことになる
  3. キリスト者としての私たちの行動は、方式や儀式や手順からではなく、関係、  
一「レーマ」は神の私たちへの語り言葉一 から生じるしかしながら、この疑わしい教えのゆえに、私たちは信仰を避けるべきではない  
そうではなく、私たちは、聖書が教えていることに目を留め、  
そうあるべき、より優れた教えを理解することを目指すべきである

### 【4】信仰は私たちのすることにどんな影響を及ぼすか

ヤコブ 2 : 26 **たましいを離れたからだは、死んだものであるのと同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。**

- ▶ パウロとヤコブについて、何年にも亘って論争があった  
パウロは信仰を支持するが働きには反対し、ヤコブはその逆の立場をとった、との見解があるが、実際には、パウロとヤコブが語っていることはそのようなことではない
- ★私が生きていることが、あなたにはどうして分かりますか？  
答えは、私が動き、息をし、話をするからである
- ★これらのことがゆえに、私は生きているといえるのですか？  
否。ロボットもこれらのことをすることができるが、生きてはいない
- ★同じように、あなたには、私が神を信仰していることがどうして分かりますか？  
答えは、私のする働きによってである
- ★これらの働きのゆえに、私はキリスト者であるといえるのですか？  
否。多くの未信者の方々が私よりもっと素晴らしいことをしている

## 信仰、一神とともに前進する一

- ▶ 信仰は、単なる抽象的な信念ではなく、何か、私たちを行動に駆り立てるものである
- ▶ 福音を広めることができるように私たちを動かすのは、信仰である  
エペソ人 3：10-12 には「これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた神の永遠のご計画によることです。私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができます」とある
- ▶ 私たちは、御霊の賜物を用いるとき、信仰を用いる  
ローマ人 12：6 には「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい」とある  
確かに、信仰は、御霊の賜物の一つである → コリント人第一 12：9
- ▶ 癒しは信仰によって生じる  
先月、クリス師が、宮の「美しの門」のところで施しを求めている男について話した  
使徒の働き 3：16 には「そしてこのイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです」とある
- ▶ 私たちは霊の戦いで、信仰を用いる  
エペソ人 6：16 には「これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます」とある

### 【5】例証

最後に、信仰がどのように働くかの例を挙げることで、私のメッセージの結びとしたい。

先月、私のために何人かの方が祈ってくださったが、この六週間ほど、私は胃腸の問題に悩まされてきた。二週間ほど前、医師がまだ診断を下す前、私はこの問題について考え、祈っていた。二つの大きな問題が頭を占めた。

1. 私には、胃がん、あるいは、腸がんで早死にした幾人かの友がいる

私自身もそうであるなら、自分の人生を神の御手に新たに委ねようと、私は考えていた

2. 私には、皆さんとともにしているこの働きに対して強力なビジョンがあり、神がこの働きのために私を召してくださったと信じている

どんな治療であれ必要となれば、この働きを続けることは難しくなるだろうと、私は案じた  
その夜、私は、預言的に神から聞くことのできることで非常に定評のある英国の友人とスカイプで対話した。私は、私が案じていることについては彼に何も言わなかった。

対話の後、私たちは互いに祈った。祈りの途中で、特定の前後関係なしに彼は、私が長生きし、私の病が私が今やっていることに対する私のビジョンに何ら影響を与えないようにと祈った。友人のことを知っている私にとって、彼がこれらのことを神から聞いたことは明らかであった。このことは私に、神が私の祈りを聞かれたとの信仰を与え、私には、案じていた二つの問題のいずれについても全く疑いがなくなった。

ごく最近になって、医師たちは、私の問題は抗生物質の投与によって癒されることを告げた。

フルダミニストリー <http://huldahministry.blogspot.jp/>

ヨシエルの会 <http://yosheru.blogspot.jp/>